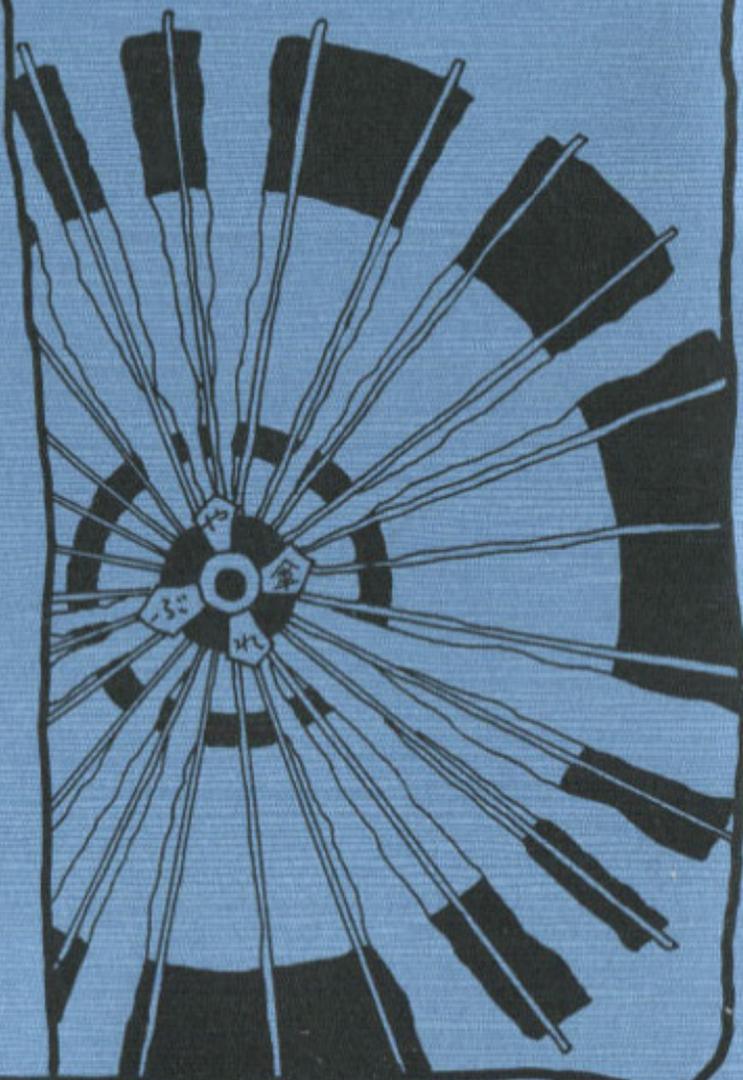


やぶれ傘



八十五号

二〇一五年八月

釣り人と二言三言朝ぐもり	根橋宏次
かうもりを提げて青田を散策す	大島英昭
南口出て炎天の丸の内	廣瀬雅男
鞆より取り出したる夏帽子	きくちきみえ
豆皿にどこそこの塩冷し酒	青谷小枝
ダリア咲く畑の向うの土埃	藤井美晴
カフェのドア開いて雨音半夏生	丑久保勲
夫婦して子ねずみを追ふ夏座敷	白石正躬
青柿や子供自転車並ぶ塾	瀬島酒望
無人駅どうぞとありて夏みかん	菊池洋子
看板は居酒屋のまま蔦茂る	小山陽子
消防署にホース干しある雲の峰	秋山信行
父の日やマッサンの酒贈らるる	久世孝雄
夏至の雲見てゐて飽きることのなく	渡邊孝彦
しりとりいきりにをはる蚊遣香	安藤久美子

抄 集 句 傘 れ ぶ や
選 夫 紀 崎 大

青葉風算盤珠をはじく音	天野美登里
麦酒飲む夫は傘寿をすぎにけり	國保八江
宿坊の朝の勤行青葉木菟	有賀昌子
新盆を迎へる友を数へけり	松村光典
単衣着て雨の甘酒横丁を	貫井照子
ハーケンの音こだまする夏の山	野口希代志
梅雨晴れや湿布の匂ふ膝小僧	萩原溪人
岩清水跨ぎて通る山の道	山本久枝
走馬燈止まりて昔消えにけり	安斉正蔵
ゆるやかな砥石のへこみ半夏生	大野芳久
噴井戸に放てば廻る笹小舟	奥田温子
梅洗ふ午後は大雨注意報	上林富子
一座二座と山を数へてほととぎす	菊地葉子
谷中へと灼くる夕焼けだんだんを	齋藤朋子
樺林の木屑の道の涼しかり	佐藤稲子

蠅叩き

大崎紀夫

民宿の風鈴下の階で鳴る
蠅叩き沖まで空の晴れわたり
金網の向うに夏の夜の工事
蝙蝠が飛んで運河の水は暮れ
湖を来る風の向うに大西日

従く人も草踏んでゆく蓐池
茅舎忌の向日葵に雨降りにけり
葛あらし砂丘の先に海の色
蠅虎本より畳へと跳ねる
俵ぐみ山裾の道乾ききり
山裾に日暮れきてをり姫女苑
向日葵の正面に出る径がない

葛切

根橋宏次

漁火はおなじところに明易し
電燈の紐に目を遣る端居かな
草刈の工程表が土手に立ち
あめんぼのすぐに来てゐるにはたづみ
いち日の終りに茅の輪くぐりけり
向日葵の畑をとほり海辺まで
葛切は鉋の目のこる塗り椀に
釣り人と二言二言朝ぐもり
水打つて電線多きことを言ひ
参道の白雨やみたるしづくかな

夏つばめ

大島英昭

銭あふひ廃車に積まれたる廃車
道すがら茄子挽ぐ人に出あひけり
夏つばめ田んぼ晴れたり曇つたり
金網のヘクソカツラを引き剥がす
かうもりを提げて青田を散策す
新築の医院ポンポンドリア咲く
蛸壺の転がつてゐる油照り
土色の夏蝶土に止まりをり
プールより水の足跡二歩三歩
自転車が隠元豆を乗せてゆく

炎 天

廣瀬雅男

山裾の戸毎に咲けり栗の花
一センチほどの目高を水鉢に
風受けるほどの高さに今年竹
駅舎無きホームに並ぶ夏帽子
小魚の水面に群れて梅雨あがる
海月浮く船の出て行く船着場
冷房の中へと自動ドア開く
南口出て炎天の丸の内
花咲いて日蔭あかるき糸瓜棚
土手道の乾く轍や猫じやらし

心 太

きくちきみえ

梅雨晴れの雀入り行く水溜まり
掃除機の音の低音梅雨ぐもり
噴水を囲むベンチにヘルメット
もつこりと泥鰯顔出す泥鰯汁
アスファルトより夕立のにほひかな
鞆より取り出したる夏帽子
グラスより氷はみ出すソーダ水
心太たちまちむせてをりにけり
どちらかといへば大きい小蠅かな
蚊取線香二カ所に置かれたるテラス

棒アイス

青谷小枝

麦の秋煎りて塩振るパンの耳
梅潰けて一日ラジオより落語
銀ブラの四五人連れの棒アイス
炎昼をまことに長き脚が来る
日盛の電柱一本分の蔭
茄子下げて歯医者軒に雨宿り
豆皿にどこそこの塩冷し酒
ガーシュインを聞く短夜を寝そびれて
ホームだけの駅をまた過ぎ葛嵐
夏川の水蹴つてゐる足の先

ダリア

藤井美晴

ぼんやりと月の出でたる麦畑
析の花見に来て繭を見て帰る
水際の緑陰にチエロさらひをり
ぶらんこの影と白雲木の花
桑の実の黒きに雨の降り注ぐ
また寝そびれて明け方のほととぎす
ラムネ抜くお大師様の前の茶屋
また雨の音の高まる青胡桃
パイナップルが齒茎につんと真昼間
ダリア咲く畑の向うの土埃

日の盛り

丑久保勲

病院の前のバス停日の盛り
家中にコーヒー匂ふ青簾
プラハへと高度下げゐる麦の秋
紫陽花や雨粒ぽつと手の甲に
向日葵や目抜き通りは一車線
カフェのドア開いて雨音半夏生
小壺より梅干つまむ宿の朝
測量器の置かれつばなし日の盛り
神主の祝詞のさなか黒揚羽
なんの実かと問へばすぐさま榎榎の実

夏座敷

白石正躬

玉葱を軒につるせる農家かな
夫婦して子ねずみを追ふ夏座敷
川沿ひは日暮間近し雪加鳴く
図書館をいでて打たれり青時雨
土手の草刈らるる中を犬つれて
梅雨曇り長く水脈引き渡船着く
夏桔梗活けられてゐる座敷かな
日盛りの雀四五羽の水たまり
胡坐して冷さうめんをすすりけり
雲水のさつさつ歩く炎天下

善光寺御開帳にて

新緑や会向柱を諸手押し
 自転車の前後に子供青嵐
 山壁に雲残りゐる梅雨晴間
 ひとむらの黄菖蒲朝の濠跡に
 バラの名はアブラカタブラ深紅なる
 向日葵の迷路に揺れてゐたりけり
 今年また一回戦で夏終る

時田義勝

振花の振れに沿つて雨しづく
 日暮までまだ刻のあり袋掛
 施しの餌に寄りくる雀の子
 菖蒲田の端に靴跡ありけり
 夏萩をしきりにこぼす寺の磴
 仏壇の下に西瓜の畏まる
 青山河仏の父に逢ふごとし

中島和子

◇ 9月・10月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
9月	1日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	國保八江
	1日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	2日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	4日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	4日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	19日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	26日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	27日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
10月	2日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	2日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	6日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	國保八江
	6日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	17日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	18日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	鎌倉文学館	丑久保 勲
	24日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	25日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

[注] ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。
 10月18日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR横須賀線・鎌倉駅J／電側改札口。吟行地は鎌倉文学館と由比ヶ浜。句会場は鎌倉生涯学習センター(鎌倉駅東口の若宮大路)。

◎連絡先

瀬島 孟 ☎ 048-862-2757	藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
大島英昭 ☎ 048-592-5041	WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522	浦和コミセン ☎ 048-887-6565
丑久保 勲 ☎ 048-853-3856	WEP俳句教室 WEP編集室へ